

事業名	山梨県立宝石美術専門学校	財務コード (事業)	
-----	--------------	---------------	--

細事業名	
------	--

担当部課室	産業労働 部 産業支援 課 地場産業・市場開拓 担当 (内線)	4669
-------	---------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 56 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
事業の目的	<p>誰(何)を対象に ジュエリー業界を目指す学生等</p> <p>その対象をどのような状態にして ・ジュエリーに関する専門的知識と技術を習得している。 ・県内ジュエリー業界に就職している。</p> <p>結果、何に結びつけるのか 地場ジュエリー産業の発展</p>
事業の内容 主に 24年度	<p>入学試験 推薦(10/27) : 受験者30名 合格者25名 (H25年度生) 第1次(11/17) : 受験者21名 合格者17名 第2次(2/2) : 受験者 5名 合格者 4名 第3次(3/2) : 受験者 3名 合格者 3名 受験者数計59名 合格者数計49名 入学者数47名</p> <p>入学者確保策 ・進学相談会:甲府5/14、6/5、9/7、長野市6/6、高崎市6/7、静岡市6/12、沼津市6/14、さいたま市6/19 ・入学希望者向けの公開講座:オープンスクールの実施 H24/6/23、7/25、7/29、8/1、8/3、8/26、9/29の計7回開催 ・県外の高校への訪問、アピール活動 長野県27校、群馬県13校、静岡県23校、埼玉県10校、東京都3校 神奈川県9校 計85校</p> <p>授業時数・単位 ・第1学年 授業時数 832 単位 26 ・第2学年 授業時数 848 単位 27 第1学年及び第2学年共通 授業時数 32以上 単位 2以上</p> <p>各種資格取得(ジュニアジュエリーマスター、貴金属装身具製作技能士3級、ジュエリーコーディネーター3級) ・資格取得者数計88名</p> <p>就職支援策 ・進路指導担当者の配置 ・「宝美生就職支援会議」による業界との連携 ・企業見学、就職体験(甲府ジュエリーフェアでの就業体験(2年生全員)、企業見学(1年生)) ・同窓会と学生のコラボ企画(2年生希望者、宝美祭で発表し展示、販売) ・出張ジョブカフェの開催 ・組合青年部との交流会</p>
根拠法令等	学校教育法、山梨県立宝石美術専門学校設置及び管理条例、山梨県立宝石美術専門学校管理規則、山梨県立宝石美術専門学校授業料、入学科及び入学検定料条例

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	在校生数 (定員充足率)	96名 (96%)	100名 (100%)	97名 (97%)	97名 (97%)	97名 (97%)	活動指標 ・前年度1年生 + 入学定員数 データの出典等 県立宝石美術専門学校集計データ
	活動指標達成率 (実績値 / 目標値)	97.0 %					
成果指標	資格取得者数	60名	60名	65名	88名	88名	目標設定の考え方 ・前年度実績を参考(H25以降ジュエリーコーディネーター含む) ・前年度実績 データの出典等 県立宝石美術専門学校集計データ
	県内ジュエリー業界への就職者数	26名	26名	34名	34名	34名	
成果指標達成率 (実績値 / 目標値)	%						
決算額、予算額 (千円)	145,485		135,653	129,796	129,796	成果指標によらない成果	
うち一財額	95,267		86,660	76,908	76,908	平成22年9月に移転して以来、地元商店街など地域との連携に力を入れており、ジュエリーに親しむためのイベントの開催や宝美祭と商店街セールの同時期実施など、立地条件を生かした新たな魅力づくりに取り組んでおり、入学者確保や就職支援にもその効果が出ている。	
所要時間(直接分)	時間		時間	時間	時間		
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間		
所要時間計	時間		時間	時間	時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)							

これまでの事業の見直し・改善状況

定員・学科・カリキュラムの再編(平成元年、平成5年、平成8年、平成19年)
 施設整備(平成10年、平成11年、平成13年、平成14年、平成18年、平成22年(移転))

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1)事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度 活動指標 達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2)事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度 成果指標 達成率		授業や実習を受けた結果、専門的知識と技術の習得の証となる資格取得者数は、目標値が60名だったのに対し、65名が資格取得している(達成率108.3%)。また、県内ジュエリー業界への就職状況については、目標値が26名だったのに対し、34名が県内ジュエリー業界に就職している(達成率130.7%)。したがって地元ジュエリー業界に知識と技術を習得した人材を送り出すという本事業の意図する成果は上げられている。	
	b		

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	これまででも在校生やジュエリー業界からの意見を基にカリキュラムの再編等を実施している。また、毎年度実施している在校生へのアンケート結果に対しても出来る限り対応することによって施設の満足度も向上している。例えば駐輪場の不足には、新たな駐輪場の確保を行ったり、工具の不足など日頃の授業に影響のあるものについても随時対応しており、平成23年度には平面研磨機を購入するなど備品の充実も図っている。しかしながら、その後の在校生アンケートでも、依然としてカリキュラムや施設などに関する要望もある。例えば鑑別に関する授業や加工時間の充実、授業で使用する工具の不足に関する要望などであるが、そういったニーズを的確に捉え今後も対応していく必要がある。	m

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	本校が、本県の代表的な地場産業であるジュエリー産業の発展により一層貢献できるよう、今後も業界及び学生のニーズに合ったカリキュラムの見直しや学生募集など運営面における工夫を引き続き実施するとともに、これまでと同様、効率的な学校経営に努めていく。 また、ジュエリー業界の変化に対応するために、高度な技術の習得が可能となるようなカリキュラムの導入や業界と一体となった人材育成、県内への就職の促進等についても検討する。	m

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	宝飾産業の市場規模縮小が加速するなかで、業界からの要望、卒業生や在校生へのアンケート結果などを勘案し、宝飾産業を取り巻く環境の変化に的確に対応できる高度な技術力、デザイン力、商品開発力を有する人材を育成するため、修業年限を延長し、カリキュラムを再編する。 具体的には、平成27年度入学生から修業年限を2年から3年に1年間延長し、少数できめ細かな指導を実施するため1学年の定員を50人から35人に減らす。また、基礎科目の充実を図るとともに、3年次に専門性強化科目を新設しより高度な技能の修得を目指す。更に、産業界との連携を強化しより実践的な企業実習を導入するとともに、国際化へ対応するための実践的な語学学習を実施する。 なお、新カリキュラムに必要な備品整備については、平成26年度より順次実施するとともに、引き続き効率的な学校経営に努めていく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。

平成25年度 公共施設管理運営状況調査シート

施設名	宝石美術専門学校				
所管部課名	産業労働部産業支援課	TEL	055-223-1543	Eメール	sangvo-shien@pref.yamanashi.lg.jp

- I 施設の概要
- II 実績
- III 利用者満足度
- IV 総合的な評価

<関係資料>

- 1 管理運営経費
- 2 組織図等
- 3 施設の利用状況

I 施設概要

設置年月日(改築年月日等)		昭和56年4月1日(平成22年9月6日移転開校)
設置目的		研磨宝飾に関する知識及び技術を修得させる
所在地		山梨県甲府市丸の内1-16-20ココリ 7・8階
設置根拠(法律、条例等)		学校教育法、山梨県立宝石美術専門学校設置及び管理条例
敷地面積(所有者)		延べ床面積3,131.71㎡(7階1,492.14㎡ 8階1,639.57㎡)(山梨県)
建物規模		ココリ:鉄筋コンクリート地下1階、地上20階(うち7階及び8階部分が学校)
主な施設内容 (定員、部屋数等)		講義室、デザイン室、実習室、コンピュータ室、職員室、事務室等 専門課程(1・2年) 100人 高度技術専門コース
建設費等		新校舎:用地費(補償費含む) 462,594千円 建物建設負担金 878,494千円 内装工事費 473,000千円
利用時間・ 休業日	利用時間	8:30~17:00
	休業日	1. 土曜日及び日曜日、国民の祝日、学校創立記念日 2. 夏季・冬季・春季休業日
管理運営形態		直営
利用料金	利用料金制	導入していない。
	主な料金	授業料 専門課程 390,000円(年額) 高度技術専門コース 7,360円(1コースあたり) 入学料 専門課程 県内 169,200円 県外 282,000円 入学検定料 専門課程 18,000円
県内類似施設の状況 (名称、施設内容等)		県内類似施設の有無: なし

II 実績

1 運営状況

単位：人

区 分		実績			前年度比	
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	22→23	23→24
1	専門課程学生(人)	96	96	97	100.0%	101.0%
2	就職率(%)	95	90	100	94.3%	111.1%
3	県内宝飾産業への就職率(%)	90	72	83	79.8%	114.9%
4	高度技術専門コース受講生(人)	82	69	66	84.1%	95.7%
5						
特記事項(※1)		・専門課程 就職者(就職希望者) H22:21人(22人)、H23:36人(40人)、H24:41人(41人) 県内宝飾産業への就職者(全体の就職者) H22:19人(21人)、H23:26人(36人)、H24:34人(41人) ・高度技術専門コース 県内のジュエリー産業従事者を対象にした夜間講座				

2 収支状況

単位：円

区 分		実績			前年度比	
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	22→23	23→24
収入の合計①		41,775,226	50,217,232	48,992,859	120.2%	97.6%
支出の合計②		150,488,885	145,484,188	135,652,170	96.7%	93.2%
収支差額(②-①)		108,713,659	95,266,956	86,659,311	87.6%	91.0%
年間利用人員③(人)		96	96	97	100.0%	101.0%
利用者一人当たりの県費投入額 (②-①)÷③ ※2)		1,132,434	992,364	893,395	87.6%	90.0%
特記事項(※1)		・H22年9月校舎移転				

※1「特記事項」

実績値に大幅な増減がある場合、補足説明が必要な場合は、その内容を記載すること。

※2「利用者一人当たりの県費投入額」の算出方法

利用者一人当たりの県費投入額=(支出の合計-収入の合計)÷年間利用人員
 収支実績については、別添「関係資料」の各数値に基づき算出すること。

Ⅲ 利用者満足度

実施時期 実施方法	<p>実施時期：平成25年6月</p> <p>実施方法：在校生へのアンケート調査実施</p> <p>回答者数：84名</p>
--------------	--

単位：％

項目	満足・十分 (やや満足・やや十分)	不満足・不十分 (やや不満足・やや不十分)	普通・どちらでもない
①施設設備の充実度	充実している	充実していない	普通・どちらでもない
	63.0	7.0	30.0
②施設設備の整備状況	整備されている	整備されていない	普通・どちらでもない
	63.0	7.0	30.0
③サービス状況	十分	不十分	わからない
④また利用(来訪)したいか	する	しない	わからない
⑤施設全体としての満足度	満足	不満足	普通・どちらでもない
	57.0	10.0	33.0
⑥各項目の平均	61.0	8.0	31.0

結果分析(※)	<p>前回実施の結果と比較すると、平均で満足が22ポイント増加し、不満足が11ポイント減少した。主な原因は、貴金属加工室の整備を行ったり、授業で使用する工具を随時補充するなど、学習するに当たっての不満について解消するよう対応したこと、学食や購買が無いことへの不満について週一度パン屋の移動販売を入れるなど学校での生活環境改善にも対応したことなどが考えられる。</p>
---------	---

※満足度が低い項目については、原因と対応策を記載すること。

Ⅳ 総合的な評価

- 施設所管課評価

評価	<p>支出が平成23年度に比べ約980万円減少したことにより、利用者(在校生)一人あたりの県費投入額は約10万円程度減少しており、前年度に比べ効率的な運営ができていると言える。また満足度向上は、在校生の意見を基に、貴金属加工室の整備や工具などの充実など学習環境を整えたためと考えられる。</p>
今後の方向性	<p>学校の魅力づくりや入学生確保につなげるため、学習環境の整備を継続していく。施設設備だけでなくソフト面での満足度や就職率についても向上できるよう、学校として在校生の意見を聞き、柔軟に対応できる体制を整備する。</p>

<関係資料>

1 管理運営経費

管理運営経費及び年度間比較

(1) 収入

単位：円

項目	H22年度	H23年度	H24年度	H24-H22	H24-H23
入学検定料・入学料・授業料	40,829,918	49,162,480	47,991,760	7,161,842	△ 1,170,720
財産貸付料・基金収入	945,308	1,054,752	1,001,099	55,791	△ 53,653
合計	41,775,226	50,217,232	48,992,859	7,217,633	△ 1,224,373

(2) 支出

単位：円

項目	H22年度	H23年度	H24年度	H24-H22	H24-H23
職員給与費	66,633,979	69,995,228	62,094,714	△ 4,539,265	△ 7,900,514
職員共済費	11,216,150	11,667,186	10,326,935	△ 889,215	△ 1,340,251
非常勤嘱託報酬	17,575,370	18,847,224	19,140,096	1,564,726	292,872
臨時職員賃金	1,981,100	1,992,632	1,763,833	△ 217,267	△ 228,799
非常勤・臨時職員共済費	845,671	1,106,300	1,076,504	230,833	△ 29,796
備品購入費	0	2,808,246	0	0	△ 2,808,246
報償費	519,500	420,100	420,100	△ 99,400	0
旅費	1,866,958	1,838,917	1,747,237	△ 119,721	△ 91,680
需用費・原材料費	14,018,651	11,970,240	9,440,028	△ 4,578,623	△ 2,530,212
役務費	12,896,648	1,584,424	4,173,885	△ 8,722,763	2,589,461
委託料	7,859,566	3,390,154	5,670,353	△ 2,189,213	2,280,199
使用料及び賃借料	13,764,292	19,863,537	19,768,485	6,004,193	△ 95,052
工事請負費	1,281,000	0	0	△ 1,281,000	0
負担金	0	0	0	0	0
公課費	30,000	0	30,000	0	30,000
合計	150,488,885	145,484,188	135,652,170	△ 14,836,715	△ 9,832,018

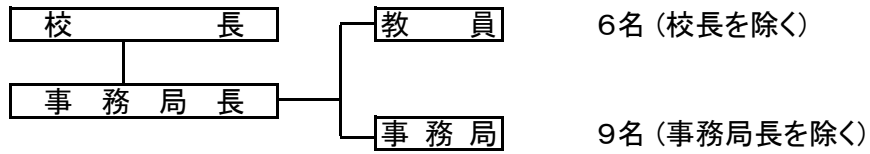
2 組織図等

山梨県立宝石美術専門学校組織図(平成24年度)

1 運営主体

山梨県(宝石美術専門学校)

2 組織図



(宝石美術専門学校)

校長	1名(非常勤)
事務局長	1名(正職員)
教員	6名(正職員)
事務局次長	1名(正職員)
副主査	1名(正職員)
非常勤嘱託	6名(校医3名を含む)
非常勤講師(教員)	38名
臨時職員	1名
計	55名

3 施設の利用状況

単位:人

区分	H22年度	H23年度	H24年度	平均
専門課程学生	96	96	97	96
高度技術専門 コース受講生	82	69	66	72
合計	178	165	163	169

H24-H22	H24-23
1	1
△ 16	△ 3
△ 15	△ 2

平成24年度の卒業状況

単位:人、%

区分	定員	入学者 a	卒業生 b	卒業生の 割合 b/a
専門課程	50	50	45	90.0%
計	50	50	45	90.0%

様式3(外部評価対象施設)

今後のあり方等検討シート

	課題と見直しの方向性
県の施設としての必要性	<p>(国、市町村または民間の施設との重複はないか、市町村・民間等への移譲を検討したか、県が設置する個別の理由はあるか、廃止した場合の影響等)</p> <p>全国出荷額の3分の1を占める本県ジュエリー産業は、県としても非常に大事な地場産業の一つであり、宝石美術専門学校は本県の地場産業振興施策の一環として、ジュエリー産業の振興と人材育成を目的に設立された教育機関である。ジュエリー業界と密接に連携した実技中心の人材育成を行っており、市町村や民間機関においては、規模や機能において同等の施設の設置、運営並びに同様の教育を行うことは極めて難しく、実際に類似施設の設置は行われていない状況にある。よって、引き続き県の施設として設置管理していくことが必要である。</p>
管理方法	<p>(指定管理者制度の導入、業務委託、職員配置の見直し、利用料金の見直し等)</p> <p>学校教育法第5条により設置者管理主義が取られているため、指定管理者制度の導入は出来ない。また、経済情勢等により変化するジュエリー業界の要望に応じて、教育内容についても本県の地場産業振興施策と連携して常に見直しを行っていく必要があるため、引き続き県直営で管理することとする。</p>
利用状況	<p>(利用者の増減理由、利用者増に向けた取組、利用者が少ない施設の根本的な改善策、利用者の意見を取り入れているか等)</p> <p>オープンスクール及び特別体験学習や学校見学の受入を実施するなど、実際の学校現場を知ってもらうなかで広く県内外にPR活動をしており、概ね定員を確保できている。</p> <p>また学生を対象に満足度調査を実施し、授業内容で足りないもの、施設整備の不備など改善すべき点について順次対応しており、学生の満足度については向上している。</p> <p>今後もニーズの変化に的確に対応し更なるサービスの向上に努めていくことが必要である。</p>
効率性	<p>(収支の状況・利用者1人当たりの経費の状況は効率的か、業務内容の効率性・経費の効率性から見て、改善の余地はないか等)</p> <p>平成23年度に比べ支出が減少したことにより、利用者(在校生)一人あたりの県費投入額が減少しており、前年度に比べ効率的な運営ができていると言える。</p> <p>今後も、更なる効率的な運営を心がけていく必要がある。</p>
社会環境の変化	<p>(当初目的は達成しているのではないか、事業量は適正か、県民ニーズの変化に対応しているか等)</p> <p>県内地場産業の中心であるジュエリー産業を取り巻く環境は、依然として非常に厳しい状況にある。このような状況下で地場ジュエリー産業の振興を図るため、これまでと同様に優秀な人材を育成し、業界に送り出すというニーズに対応するよう、入学者の確保やカリキュラムの充実などを図るとともに、業界や学生のニーズの変化に対しても的確に把握し、学校運営に反映していくことが必要である。</p>
その他の課題	<p>(老朽化の状況、改築の必要性等)</p>